



今回は、芳賀町ジュニアリーダーズクラブでボランティア活動をしている町内の高校生に寄稿いただきました。芳賀町ジュニアリーダーズクラブは、自分の住んでいる地域を活動の場としてレクリエーションや社会奉仕活動を行うボランティア団体です。

「さとり世代」を生きる



芳賀町ジュニアリーダーズクラブ
 会長
 かなこ
水沼華那子さん
 (下高根沢)

とある新聞によると「さとり世代」という今の若者を象徴する言葉が広まっているらしい。「ゆとり教育を受けつつ、さらに勉強をし、現実的な将来を見通す賢い集団でもある」と記載されていた。

現代の若者たちは「これだからゆとり世代は・・・」と、あまり良くない評価をされがちである。しかし皆がそのような評価をされる態度をとっているとは限らない。少子高齢化が進み、若者の地方離れが危惧されている今、地域をより活性化させるため、祭りの囃子など行事に積極的に参加したり、中学生は科学技術の素晴らしさを生かし、ロボットコンテストに参加したりなど、将来のため日々努力を積み重ねている。それらの業績を差し置いて、ひとくくりに「ゆとり世代」とまとめてしまうのは、実にもったいないと思う。

私は、今の不景気で就職が困難な社会で、同じ世代を生きる若者たちがさまざまな活躍をしてくれるだろうと考える。

小さい子どもたちの笑顔のために



芳賀町ジュニアリーダーズクラブ
 副会長
 りゅうが
山田 竜雅さん
 (祖母井)

私は、芳賀町ジュニアリーダーズクラブで副会長をしています。小学生と接することが多く、高校生である私たちは少しでも楽しく遊んでもらうために試行錯誤を繰り返しています。しかし、年々小学生の数が減少傾向にあるとニュースで見ました。そして高齢者の数が増加していることで、今の日本は超高齢社会と言われています。

少子高齢化をなくすためには、子どもが住みやすい環境をつくることだと思います。例えば、道路の整備・地球全体の緑化、そして地域のごみ拾いなどの美化活動を中心にしていけば、笑顔あふれる美しい日本になると思います。

私は、地域のごみ拾いなどの自分でできることを大切にしていきたいと思っています。まず芳賀町から始めていけるように、より一層の取り組みをお願いしたいと思っています。

私達が大人になっても住みたいと思う町づくり



芳賀町ジュニアリーダーズクラブ
岸 菜々子さん
 (祖母井)

私はこの春、芳賀中学校を卒業し高校に入学しました。芳賀町に生活した今までの15年間、町民の方々のご協力で、安全かつ恵まれた生活を送ることができたことを心から感謝しています。

現在は、芳賀町ジュニアリーダーズクラブに所属し、支えていただいた芳賀町の皆様方に少しでも協力できるよう、ボランティアを通して町の行事に参加させていただいています。

ボランティアに携わった半年間、芳賀町の方々との接し、明るく常に前向きであると感じました。町の行事はさまざま、他の市町村と比べても、数多くの催し物が企画・運営されています。参加するごとに芳賀町の豊かさと住みやすさを感じています。

近い将来、私も進路を選択し、芳賀町を離れることになってしまうかもしれません。しかし、故郷を思い、振り返り、戻りたいと思えるような芳賀町であってほしい、これからも進化し続けられる町づくりを町政や町民の方をお願いしたいと思います。